

館内説明

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

皆さん、こんにちは。当館のホームページをご覧ください。下記より当館の説明をいたします。

ここは国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と申します。原爆で亡くなられた方々を追悼するために作られた施設です。

この建物内では、水が流れているところが7ヶ所ございます。どうしてこんなにもたくさんの水が流れているのかと言いますと、原爆で亡くなられた多くの方が「水をください」と水を求めながら亡くなられたからです。原爆投下によって水を求めながら犠牲となった多くの方のために館内では水を絶やさないようにしています。7ヶ所の水のうち、一番大きいのが、地上部分の直径29mの水盤です。この水盤には約7万個の光が灯っています。この7万個というのは、原爆が投下されたその年に亡くなられた方とおおよそ同じ数です。その方たちを追悼するために毎日あかりを灯しています。



また、この建物の壁は杉板の本実で型どったコンクリート仕上げになっています。杉板の年輪とその積層によって「歴史の積み重ね」を表しています。

そして、追悼空間には光の柱が12本あります。この光の柱をよくみると、下から上に向かって光がさしています。これは、世界中に平和の想いが届くようにとの意味が込められています。

そして、光の柱の先の正面には高さ9mの名簿棚があります。この中には原爆で亡くなられた方のお名前が書かれた原爆死没者名簿がおさめられています。現在、205冊、20万1,942名（長崎被爆者のみ・令和7年8月9日現在）の方のお名前が書かれています。その中には外国の方々のお名前も含まれています。名簿棚の一番下の段の右側に一冊だけ白紙の名簿があります。どうして白紙の名簿があるかというと、原爆が落された中心地周辺は、3000度から4000度の高熱になりました。そのため、家族全員が亡くなられたり名前もわからない方もたくさんいらっしゃいます。その方たちを追悼するために白紙の名簿が1冊あります。

この名簿棚の方向、約250m先が原爆が落下した中心地です。そして原爆は約500m上空で炸裂しました。原爆が炸裂した空が見えるようにこの建物は設計されました。その空の下では、皆さんと同じように、そこで生活をしてきた人がいたことを忘れてないで下さい。その方たちが、原爆でどうなったかということに思いを馳せながら、この追悼空間で追悼の祈りをささげていただければと思います。

これで当館の説明を終わります。

